

2007年4月26日

埼玉県教育委員会
教育長 島村和男 様

埼玉県教職員組合
中央執行委員長 浅井 勉

埼玉県高等学校教職員組合
中央執行委員長代理 竹下里志

入試制度に関する要求書

埼玉県入学者選抜方法改善協議会（以下、入選協）は、「入学者選抜の日程について」、「選抜制度の在り方について」及び「複数の受検機会について」に関し、3月22日付けで報告をまとめました。

私たちは、以前から高校入試は廃止し、希望する生徒全員に入学を保障すべきであると主張してきました。しかし、文部科学省はじめ教育行政は、いわゆる「適格者主義」の立場のもとに選別のための高校入試を続けています。

高校入試を実施するにしても、中学生が中学校段階で共通して学ぶ普通の学習をしっかりとくめば安心して入試にのぞめるような制度にすることが基本であると考えます。従っ

て、各学校の「特色化」に対応した「選抜方法の多様化・評価尺度の多元化」は、入試を複雑にし、中学生にいっそう競争を強いるものとなっています。中学生と保護者・父母に不安とストレスを与え、高校ごとに「受験対策」を講じなければならないような入試制度にはすべきではありません。また、学区制の廃止についても強く反対するものです。

今回の入選協報告は、これまで私たちが要求してきた入試日程を全体的に遅らせることや、全員が学力検査を受検するなどの改善点が含まれています。しかし、受験競争を少しでも緩和し、どの子も安心して地域の高校に進学できるような入試制度にするため、さらに下記の点をふまえることを要求するものです。

記

1. 入試日程について

- (1)入試日程を遅らせることは、これまで私たちが要求してきたことではあるが、高校の卒業式、学年末テスト、学年末の追認指導など、また中学校の卒業式などの日程に配慮すること。また、2月中旬から3月上旬は人事評価制度の最終評価に関わる様々な日程とも重なるため、この点にも配慮して学校現場の多忙化に拍車がかかるような日程にならないように配慮すること。

- (2) 受検生が保護者や担任と十分話し合う時間を保障するために、志願先変更期間を延長すること。また、途中経過の状況を適宜発表し、再変更も認めるなど丁寧な対応ができるようにすること。
- (3) 採点日については、受検者数など学校の実情に応じて3日間できるようにすること。
- (4) 私立高校に対しては、教育委員会が主体性を持って日程調整を行い、入学時の入学金納入など父母負担が増えないように働きかけること。

2．選抜方法のあり方について

- (1) 英語による問答、作文、自己表現、教科選択、傾斜配点、選択問題など現行の「選抜方法の多様化・評価尺度の多元化」は、利用されていないものや、学力検査に類するものもあるので、見直し、縮小すること。
- (2) 適性検査については、一部の芸術系、スポーツ系学科等で限定的に実施すること。
- (3) 面接による「生徒の能力、適性等の評価」は、短時間に多人数の面接を行うことから、
適切な評価を行うことは困難である。実施の可否も含め、実施方法については各学校の実情に応じて柔軟に対応すること。
- (4) 各学校が作成する「独自問題」による入試は、受験競争を加熱化するばかりか、問題作成担当の教職員に過度の負担を課し、セキュリティ上の問題も派生するため導入しないこと。
- (5) 入試の透明性を高めるためとして、「点数化」にそぐわない特別活動や部活動などまで、一律に選抜資料を「点数化」しないこと。
- (6) いわゆる「部活推薦」など、選抜要領に基づかない不公正な選抜はあってはならないことである。そのような選抜が行われないように指導すること。

3．複数の受検機会について

- (1) 将来的に1回入試にすべきであると考えるが、それを見通して前期入試の募集人員を各学校の実情に応じて大幅に高めること。
- (2) 後期入試の学力検査については、受検生の加重負担にならないように十分配慮すること。